

「光ブロードバンドの活用方策検討チーム」(第2回) 議事要旨

- 1 日 時：平成21年12月9日(水) 10:30～12:05
- 2 場 所：総務省省議室(7階)
- 3 出席者：
 - (1) 構成員(五十音順、敬称略)
青山友紀、依田高典、岡村久道、後藤玲子、竹中ナミ、政所利子、三友仁志、森川博之、山口英
 - (2) 総務省
内藤総務副大臣、桜井総合通信基盤局長、福岡電気通信事業部長、猿渡高度通信網振興課長
- 4 議事内容
 - (1) 第1回における論点整理と本チームの検討ポイント(光ブロードバンド活用モデル)
 - (2) ブロードバンドを活用した自治体の行政改革モデル
 - ① 自治体システムの現状と今後の見通しについて
 - ② 光ブロードバンドとクラウド・コンピューティングを活用した行政効率化のモデルとその効果について
 - (3) ブロードバンドを活用した医療情報の共有化モデル
 - ① 電子カルテ等の医療情報の共有化の現状と今後の見通しについて
 - ② 光ブロードバンドとクラウド・コンピューティングを活用した健康情報の共有化モデルとその課題について
 - (4) ネットワークの機能要件と参考モデル
 - ① 各種広域ネットワークの概要と機能・コストについて
 - ② 参考となる先行モデルについて(地方銀行モデル)
 - (5) 意見交換
 - (6) 次回の検討内容及び日程等の確認並びに今後のスケジュール
- 5 議事要旨

【三友座長から論点整理と本チームの検討ポイントについて説明】

【横須賀市及び京都府からプレゼンテーション】

- 説明者
 - 電子化の推進にあたっては、トップの理解と強い指導力が必要。
 - 各地方自治体にあるデータを庁舎外に出すにあたり、国でネットワークの安全性等に係るガイドラインを作成頂きお墨付きを頂ければもっと円滑に関係者の合意が得られると考える。

- 説明者
 - 外部帳票の様式がバラバラであるなど、共同化の前提となる標準化についても国からご指導頂ければありがたい。

- 構成員
 - 行政の効率化については、住民から見えない行政内部の話になるが、行政の効率化を推進することにより、住民にもメリットがあるということを打ち出していければと思う。

- 構成員
 - 基幹業務をはじめとする地方自治体の業務の支援システムが、ブロードバンドを介してクラウドサービスにより提供される場合の具体的なコスト削減効果及び住民へのサービス向上効果を明らかにしてほしい。

- 構成員
 - アメリカで行われている Apps.Gov についてはどのように評価しているのか。

- 内藤副大臣
 - 今まで電子化をしても効率性が上がらなかったのは、データや帳票のレイアウト等を各自治体の自由に任せきってしまったところに原因がある。それらの標準化について、国が十分に責任を持ち進めていくべき。
 - 地方自治体のデータを庁外で保管するための一定のガイドラインを国で整備する必要がある。

【京都大学附属病院からプレゼンテーション】

- 説明者
 - 電子カルテ導入に係る業務プロセスへの影響だが、現場の医師は既にあるプロセスを実行するのみで負担は増えていない。
 - 交通事故等の際に本人以外の方が電子カルテの情報に時間、場所関係なくアクセスできるようにするのは、システム的には難しくない。救急隊員、ドクター等に時間を制限してアクセス権を与えることも可能である。
 - 電子カルテの導入には、ネットワークやデータセンターも必要であり、病院にも費用負担が発生するので国の支援があるとありがたい。また、クラウドで柔軟に対応出来るようなることを期待している。

- 構成員
 - 診療報酬につながらないといった、医師のインセンティブに関する問題もあるだろう。

- 構成員
 - 電子カルテの問題は、患者側にセカンド・オピニオンが得られるといったメリットがあり、抵抗感を有する医師も存在するが、患者側のメリットを軸に電子カルテの共有化を進めて欲しい。

- 説明者
 - カルテの所有者は誰かという議論の共有認識はほぼできてきている。患者に開示する部分と医療従事者のものとして開示しない部分（経過記録等）の区分については、それほど混乱しないと想定される。また、病院で発生したデータには、各々アクセスが許可される者が設定されているのでコントロールが可能である。
 - 開業医と大病院との間の患者情報の連携については、電子カルテを導入している開業医の場合、対等に情報提供しあうため、問題はない。例えば、熊本では開業医の血液検査の結果は専門の機関に送られ、大病院も含め情報共有されていた。

- 内藤副大臣
 - 電子カルテを用いた健康情報サービスがクラウドで提供されるようになれば、小規模な病院やクリニック等への導入が促進されるであろう。

【次回の検討内容及び日程等】

- 三友座長と内藤副大臣で第3回に向けた論点を整理し、1月下旬に次回の検討会を開催したい。

以 上